

「神之嶺小学校の井之川夏目踊り伝承活動の取組」

1 学校名

徳之島町立神之嶺小学校

2 学年・人数

1年生～6年生（計59人）

3 日時・場所

（1）練習の日時

平成30年4月～平成31年2月

総合的な学習の時間，創意（本校多目的スペース）

（2）発表の日時・場所

平成30年8月18日（土）～19日（日）井之川浜下り（井之川集落）

平成30年8月26日（日）徳之島民謡大会（徳之島町生涯学習センター）

平成30年9月16日（日）運動会（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

井之川夏目踊り（いのかわなつめおどり）

（2）由来

琉球服属時代（約500年前）には伝わっていたといわれているが詳細は不明である。旧暦七月に，人々が先祖に対し収穫感謝し，集落の平安，家々の安泰のお祝いをするためのものと言われる。

（3）構成等

チヂン（太鼓）の打ち手3～4人とそれを取り囲むように男性が円陣を作り，さらに女性が外回りに円陣を作り，「あつたら七月」等を歌いながら踊る構成である。踊りは，「押す，拌む，こねる」の三基本型の変化形。歌は，全13種類あり，歌によって踊り方も違う。

5 保存会や地域との連携の具体

年間を通して，保存会の方々を講師として学校に招聘し，夏目踊りの指導をしていただいている。また，運動会での発表時は，地域の方々にも踊りに参加していただくことで，大変盛り上がっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

（1）練習や発表時間を，総合的な学習の時間や創意の時間にきちんと位置付けることによって，郷土を愛し，誇りに思う態度の育成につなげている。

（2）保存会の方々に，夏目踊りの意義や歴史，歌詞の意味等も併せて指導していただくことで，児童の活動意欲を高めている。

（3）平成14年文化財少年団を結成し事務局を学校に置くことで，地域と学校が一体となって，県無形民俗文化財井之川夏目踊りの継承活動を行っている。

（4）大型アクリル板に書かれた夏目踊りの歌詞を多目的スペースに常時掲示し

いつでも歌詞を覚えられるようにしている。

7 取組の様子



保存会の方々による指導



夏目踊りのお話



運動会で地域の方々と一緒に



徳之島民謡大会で発表

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 夏目踊りの歌は島口で少しむずかしいけど、歌いながら踊るのがとても楽しい。(児童)
- わたしも大人になったら、浜下りの夏目踊りでチヂンをたたきながら集落の人といっしょに歌ったり踊ったりしたい。
- 自分が小学校の時は、夏目踊りの授業はなかったので、学校で練習できるのはとてもいいことだと思う。(保護者)
- 島口の歌詞なので覚えるのがむずかしいと思うが、繰り返し歌うことで、自然と覚えていく。まずは、歌や踊りを楽しんでほしい。楽しかったことは、大人になっても忘れないから。また、学校が伝統継承に協力的なのが大変うれしい。今後もいくらかでも協力していくので、この活動がなくならないようにしてほしい。(保存会)
- 「ふるさとを愛し、自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる神之嶺っ子を育成する」という学校教育目標にもある通り、「夏目踊り」は、まさしく生きた地域の教材だと思う。今後も保存会のみなさんに協力をいただきながら、本校の特色ある教育活動として継続していきたい。(教員)